やまだの歴史人物誌 52

このコーナーでは、町にゆかりのある歴史人物とその結び付きなどをシリーズで紹介しています。執筆者は山田史談会長の佐藤仁志さん（豊間根・74）です。

# 山田町・大沢村・豊間根村の首長を務めた大久保喜重治

喜重治は明治13年飯岡村に生まれた。24歳の時日露戦争に従軍、帰国して早稲田大学、日本大学、外語大学で学び、東京で商社に就職することを試みたが失敗し帰郷した。

明治39年26歳の若さで山田町助役に抜擢され就任、29年の三陸大津波で被害を受けた町の復興、財政立て直しに尽力し、44年に退任した。大正4年6月、35歳の若さで山田町長に就任、漁業をはじめ農林業の振興に努めた。

沿岸と内陸を結ぶ交通の必要性が問われていた大正6年、原内閣の誕生を機会に宮古町長関口松太郎ら沿岸町村長とともに原総理と鉄道院総裁に盛山線（盛岡―山田）および三陸沿岸線敷設の請願を行っている。

大正13年山田町で大火があり232戸が焼失、この復旧に全力を尽くした。昭和元年には町立山田実科高等女学校、翌2年には町立山田実業専修学校を設置するなど教育の充実に努め、2年2月まで3期12年にわたり町政の発展に努めた。

町長退任3カ月後となる昭和2年5月から、村長不在であった豊間根村の村長を木村利男が就任するまでの4カ月間務めた。6年、喜重治は山田町議会議員の補欠選挙で議員に当選し、議員を務めた。翌7年11月、喜重治は大沢村長に就任しその3カ月後となる8年3月3日、三陸大津波が襲来した。死者は1人、家屋は流失、倒壊し、漁船や漁業施設などにも大きな被害を受けた。喜重治は率先し復旧に精力的に努めた。

昭和9年2月には大沢教育後援会を設立、4月に大沢補修学校に女子部を併設、10月には給食所兼託児所を建て、10年学校道路の改修整備、15年には村立大沢図書館を設立するなど教育に力を入れ、8年務めて15年11月に退任した。

昭和16年12月8日太平洋戦争が勃発、翌17年喜重治は体調を崩し4月に永眠した。山田町助役、山田町長、豊間根村長、山田町議会議員、そして大沢村長として地方自治の発展に貢献した62年間の生涯であった。

南陽寺参道に三陸大海嘯溺死者慰霊塔があり、正面に「昭和八年三月三日旧二月八日午前三時十分海嘯襲来　大澤村流失戸数七十二戸　溺死者一名」と刻まれ、裏面には慰霊塔建立の旨と「昭和九年三月三日建設　下閉伊郡大澤村村長大久保喜重治誌」と刻まれている。

昭和10年（55歳）ころの大久保喜重治

南陽寺参道にある三陸大海嘯死者慰霊塔

## 3月1日から7日まで春季全国火災予防運動

# 地域ぐるみで防火に努めよう

「火のしまつ　君がしなくて　誰がする」をスローガンに、3月1日から7日まで春季全国火災予防運動が展開されます。昨年は町内で5件の火災が発生。これからの時季は空気が乾燥し、風の強い日が多く火災が起きやすい気象状態が続きます。火の元には常に注意を払い、家族ぐるみ、地域ぐるみで防火に努めましょう。

◆問い合わせ　山田消防署（☎82−3139）へどうぞ。

**住宅防火でいのちを守る7つのポイント**

①寝タバコは絶対やめる
②ストーブは燃えやすいものから離れた位置で使う
③ガスコンロなどのそばを離れるときは必ず火を消す
④逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する
⑤寝具、衣類およびカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する
⑥火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置する
⑦お年寄りや身体の不自由な人を守るため、隣近所の協力体制をつくる